

式 辞

由宇川からの風は、まだ冷たさが残るものの、やわらかな日差しの中、校庭の木々も、今日の卒業式を祝うかのように新芽を大きくふくらませています。

68名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。今、みなさんが手にした卒業証書は、中学校3年間と小学校6年間、合わせて9年間の義務教育の終了を表すものです。また、それは、みなさんの今日までのたゆまぬ努力と、みなさんを励まし続けてくださったご家族の深い愛情、地域の皆様の温かい支え、そして、この由宇中学校の教職員の導きの証であることも、心にしっかり刻んでほしいと思います。

さて、この3年間を振り返ってみますと、授業や学校行事、生徒会活動や部活動など、たくさんの思い出がつきないことと思います。中でも、「Plus Ultra～協力し由宇中更なる前進を～」のスローガンの下、執行部を中心にリードした生徒会活動は、これまでの伝統を大切にしながら、さらに高い目標に向かって自分たちの力で由宇中を築いていくことの大切さを全校生徒に示しました。

具体的な3つの行動目標「あいさつ、そうじ、言葉遣い」は全校生徒の新たな指標として示され、生徒全員が3つの目標を日々意識し、学校生活を送りました。本当に3年生のみなさんの活躍には目を見張るものがありました。さらに、体育祭や文化祭では、皆さんは全校生徒の中心として、すばらしい活躍をしました。2つの大きな行事の成功は、限られた時間の中で精一杯準備し、協力し取り組んだ皆さんの努力によるもの以外のなにものでもありません。このことは、本校の誇りです。こうした活動は、在校生の心にしっかり受け継がれ、これからの皆さんの生活の礎になるとともに、今後の人生に元気と勇気を与えてくれるものと確信しています。そして、私は今、皆さん一人ひとりを目の前にして、本当に誇らしく思う気持ちでいっぱいです。卒業という門出に際し、フランスのことわざ「**選んだ孤独は良い孤独**」を紹介し、臆の言葉にしたいと思います。

食事やカラオケ、遊園地や初詣など、どこに行くのもひとりぼっちで孤独な自分に悩んでいるという男性に哲学者の鷲田清一さんは、次のように答えています。「あなたは人々が連れ立って出かけるところばかり行って、自分は独りぼっちだと悲観しています。が、図書館はどうですか？美術館はどうですか？どちらも仲間とわいわい騒いで訪れるところではありません。そう、ひとりぼっちと孤独は同じではないのです。誰にも相手にされない自分が見捨てられていると感じていても、ひっそりと独りの時間を過ごすことができるのです。フランスに「**選んだ孤独は良い孤独**」ということわざがあります。ひとりぼっちに傷つきながらも孤独を味わい尽くし、その孤独を人々を深く慰める表現にまで持っていった人たちがいるのです。一度、そういった人々と図書館や美術館で出会い、語らうことから始めたらどうですか。」と…

日本語では独りぼっちと孤独は同じ意味にとらえられる事が多いのですが、英語では、独りぼっちは「**ロンリネス**」、孤独は「**ソリチュード**」と言い、全く別物なのです。「**ソリチュード**」は一人の時間に周りの評価を気にせず、自分自身を見つめ直すことを言います。

これから皆さんは、それぞれの道に進みます。孤独感を感じ悩むこともあると思います。そんな時は、「**選んだ孤独は良い孤独**」ということわざを思い出してください。自分自身を深く見つめることが立派な大人へと成長させてくれます。

終わりにになりましたが、この日が来ることを心待ちにしておられた保護者の皆様、高いところから誠に恐縮ですが、本日はお子さまのご卒業、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

また、3年間にわたり、物心両面から本校の教育活動に、深いご理解と温かいご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。今後の卒業生の皆さんの限りない発展と活躍を心から祈念し、式辞といたします。

令和二年三月七日

岩国市立由宇中学校長 秋友高弘